

## トゥールーズでのテロ

2012年3月25日

3月22日木曜日の午前11:35、テロリストのモハメド・メラ(訳注:英語表記は Muhammad Marakh: ムハマド・マラとなる)はフランス警察との銃撃戦で殺されました。彼は4人のフランス系ユダヤ人と3人のフランス人警察官を殺害しました。

テロリストの殺害の後、メラの身元が特定される前ヨーロッパのメディアは、これは恐らくネオナチの仕業であろうと報道しましたが、それは間違っていました。メラはアルカイダの支部組織のメンバーだったのです。はっきりと述べておきましょう。メラは、彼らがユダヤ人だったから、これら4人のユダヤ人を殺害したのです。彼はイスラム過激派の思想に洗脳されていたため彼らを殺害したのです。

欧州連合外務上級代表のキャサリン・アシュトン氏は、トゥールーズでのユダヤ人殺害とガザでのパレスチナ人の子どもたちの死を一緒にして述べました。確かにいかなる無実な人の死は言葉にできない悲劇です。しかし、このような(訳注:トゥールーズとガザでの事件が)倫理上に同じであるということは受け入れがたいものです。イスラエルのネタニヤフ首相は述べました。「[トゥールーズでの]虐殺と、子どもたちを「人間の盾」として使う人々に対するイスラエル軍の極めて正確な防衛行為を比較することは考えられない。」

ヨーロッパは目覚めてイスラム過激派を正当化することを止めようとするでしょうか。その可能性は薄いです。イスラエルでのことわざを要約すると、「裏庭で蛇を育てる者は、ある日リビングルームでかまれるだろう。」

## イエメンでの殉教

3月18日の日曜日、ジョエル・シュルム(29)はイエメンのタイズで、地元アルカイダの一派からの、バイクに乗る銃を持つ二人によって撃ち殺されました。ペンシルバニア州出身のアメリカ人であるジョエルは「スウェーデン国際学校」で英語を教えていました。ジョエルの姉妹のジェシカは答えました。「ジョエルはクリスチャンで、神の愛によって活動していました。」

火曜日、数百人の穏健派のイスラム教徒たちがシュルムさんの殺害に反対するデモを行うため出してきました。彼らは「私たちはジョエルが大好きだ」や「テロリズムを止めよう」といったプラカードをかかげました。祈りによって彼らと同意しようではありませんか。イスラムのテロリズムによって犠牲になるのは、他の民族よりアラブの方が多いのです。シュルムさん殺害に関する詳細と動画(英語)は、こちらをクリックして下さい。 <http://www.worldmag.com/webextra/19326>

この殺害とフランスのユダヤ人の殺害は驚くほど類似しており、ただ今回はイエメンに住むクリスチャンであったということです。誰もが惑わされることのないようにしましょう。シュルムさんが殺害されたのは、彼がクリスチャンであったからであり、彼を殺害した者たちはイスラム過激派思想に洗脳された上での行動だったのです。

## 破られることのない契約

契約は「神と人との間に締結された破られることのないもの」と定義することができます。契約は聖書の中にあるすべての出来事の枠組みです。聖書の契約は連続性があるもので、理論的に一つの項目が次の項目の上に成り立っているものです。

1. **アダムとイヴ**: 神は地上を治める権威を男と女に与えました(創世記 1:26)。この理由ゆえにイエシュア(イエス)は人として地上にお生まれになりました。これは女の「種(訳注:子孫)」はある時蛇の頭を砕く(創世記 3:15) という約束によって確証されています。
2. **ノア**: ノアの洪水は誰もが想像することのできる出来事を遙かに上回る大惨事でした。ノアの家族は恐らくおののいたことでしょう。恐らく地は彼らの足の下で崩れ落ちたことでしょう。このような理由で、神は「虹の契約」を結び、被造物は決して破壊されないと約束されました(創世記 9:11)。[これが、黙示録 21 章の新天新地は被造物の刷新でなければならず、宇宙の「創り直し」ではないという理由の一つです。]
3. **アブラハム**: アブラハムは祝福となり、彼の「種」を通して諸国の父となり、カナンの地を所有することになります(創世記 12:2-3; 17:2-8)。この契約において、神はアダムとノア両者に約束されたことを更新、発展させました。アブラハムはアダムとノアに約束されたように、今や地上を再所有する権威が与えられたのです(ローマ 4:13)。蛇を打ち倒す「種」はアブラハムから出るのです。ノアから生まれた諸国は、彼を通して祝福されるのです。
4. **ユダ**: 来るべき「種」の約束はアブラハムからユダへ続いています(創世記 49:10)。これが、ユダヤ民族が破壊されることがない理由の一つです(エレミヤ 31:36-37)。そして彼らはイエシュアが支配、君臨して頂くために地上にお招きするその一員とならなければなりません(マタイ 23:39)。
5. **モーセ**: イスラエルの民はシナイでの完全な倫理的戒めのすべてを守るという破られることのない(訳注:取り消されることのない)誓いをしました。しかしその後彼らは戒めを破ったため、彼らは絶望的になりました。これは恐るべき状況です。これが新しい契約(エレミヤ 31:

31-33) を必要とする背景です。ユダヤ人は自分の契約を破ってしまい、贖われなければならないのです。しかしそれは超自然的な介入がなければ不可能なことなのです。

6. **ダビデ** - 神は破られることのない契約をダビデと結びました。それは、彼の「種」が永遠にエルサレムから地上を支配するというものです(詩篇 89:3-4、28-29、34-37)。これがイエシュアの再臨が文字通りでなければならず、千年王国においてイエシュアがエルサレムから支配する一つの理由です。これは終わりの時の預言の問題だけでなく、神の、ご自身の契約に対する忠実さを表すのです。
7. **イエシュア**: 神は嘘をつきません。すべての以前からの神の約束が新しい契約においても考慮されます。アダムの子としてのイエシュアを通して、神から委託された地上を支配する権威は回復されるのです。イエシュアの復活と共に、神がノアに地は保たれると約束されたこともまた回復されるのです(ローマ 8:19-22; マタイ 19:28; II ペテロ 3:4-13)。すべての国々はアブラハムの種としてのイエシュアを通して祝福されるのです(ガラテヤ 3:13)。ユダヤ人は保持され、律法を破るという罪は赦され、ダビデの王国が地上に回復するのです(ルカ 1:32-33; 使徒 1:6)。

神の契約は破られることはありません。すべての神の約束が成就します。私たちは哲学的な同意によって救われたのではなく、契約に忠実であるということによるのです。契約は恵みによって私たちに与えられたものなのです。私たちの信仰は破られることのない契約の締結によって神とのパートナーシップを結ぶというものです。